

## デザイン表現

**問題** 与えられたテーマから、あなたがイメージする建築を小論文とスケッチで表現しなさい。

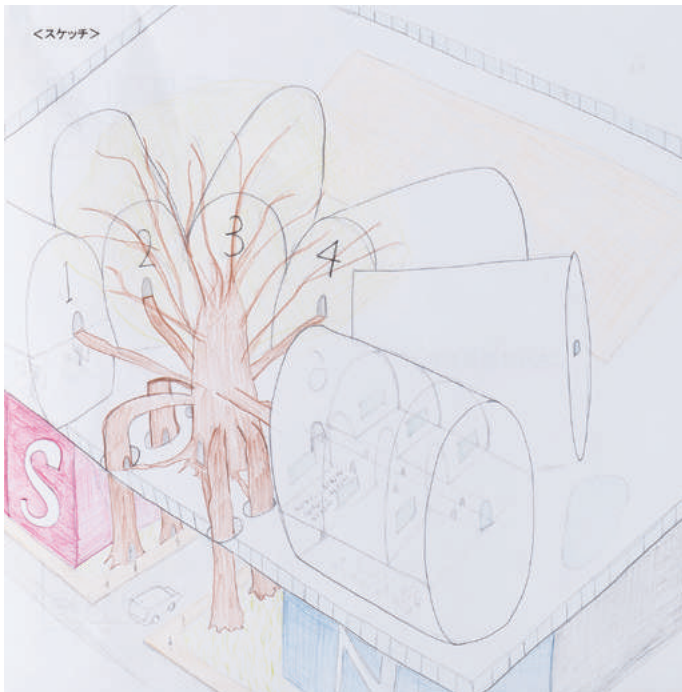
**テーマ** 「未来の学校」

**時間** 180分

**支給材料** 解答用紙 (A3)、下描き用紙 (B4)

### 評価 ポイント

言葉で与えられたテーマから、魅力的な、独創的な、そして緻密な空間デザイン表現ができているかを評価します。想像力を働かせて、独創的な空間を考えてほしい。それを緻密な絵と文章で表現できているか？それがこの入試で問われることです。



### 小論文

未来と想像して一番出てくるものは、あらゆるものが宙に浮いている絵だ。これは宙に浮く小学校。絵では分かりづらいが学校の敷地の下に巨大な磁石が設置されている。初めに宙に浮く建物を考えた時、どうしたら浮くのかを考えた。私が出した答えは磁力だ。何百年後の未来を想像した時、どうしてもこれ以外の方法が見つからなかった。そしてどんなデザインにしようか考えた。そうした結果、誰が見ても磁力と分かるようなオーソドックスな磁石の形にした。最初は違和感をおぼえたが、これはこれで学校のシンボルになるのではないかと思い、生徒たちが一目見ただけで「僕らの学校」と思えるのではないかと思う。そしてこれは私の願いだが、テレポートができるような技術がある未来になってほしいと思う。それを踏まえて入口には木が六本並んでおり、それぞれが上にテレポートできる未来型エレベータになっている。木のデザインは小学校の六年間という期間で、木の根っこのような人としての土台を作ってほしいという願いを込めている。そして中央にある大きな木からそれぞれの学年の棟へと伸びる木の枝の道、そこから見上げると見える無数に伸びる木の枝は、今の自分達にはたくさんの選択枝があり、無限の可能性のあることを表している。また、各棟は数字の0を表していて、0も同様に何も無いという事を意味するので、可能性の広がりを見せている。たとえどんなに技術が発展しても、常に進化していく事が大切だと私は思う。

### 小論文

学校と言ったら、長方体という印象が私の頭に浮んできた。形だけではなく、学校の各建築物が学生達を囲んでいるイメージは更に強い。学校とは、ただ技術を学ぶ場ではないと思っている。実は、各種の問題を正しく発見してから、解決する力を学ぶ場だと思っている。

この解決力を身につけられる環境はオープンで、自然や社会と親しい環境である。そのため、室内の教室の数を少なくして、1つの建築物として揃えるようにしている。出入口の向こうに窓をつけない理由は、それをモニターとして、春夏秋冬の変化を映すためである。ガラスの廊下を通じて、四季の声も聞こえるようになっていく。中心は大きな庭があって、これを自然と話し合う場と見なしている。

